

大阪・東心斎橋一丁目所在遺跡

ひがしんさいばし

- 物中から出土した。木簡のほか一七世紀中頃から後半の陶磁器、漆器、砥石、鐵製火箸、魚骨、ウリ科の種子などが出土した。

木簡の釈文・内容

(1)

(145) × 32 × 8 019

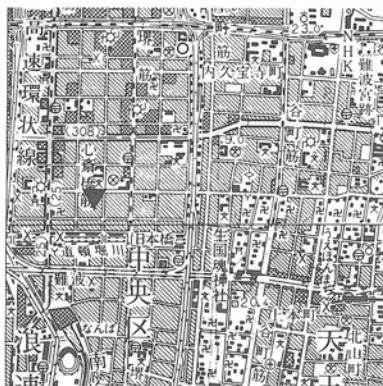
木簡の上端は原型をとどめているが、下端は破損している。木簡には大きく「あ□」と書かれ、その右側には「卯年辛」と記されている。「辛」は「卯年」に比べてやや文字が小さく書かれている。なお、木簡の用途は不明である。

(財)大阪市文化財協会 「葦火」 九八号(二〇〇一年)

(小倉徹也・鳥居信子)

調査地は心斎橋の東側に所在する、新たに発見された遺跡である。この付近は「島之内」と呼ばれる地域で、中世に石清水八幡宮領の

— 七 檀 18



が成立し、元和年間に大坂城下町に編入されたことが古文書などの記載からわかつてゐる。

